

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100129		
法人名	株式会社 介護いわて		
事業所名	グループホーム 和や家くずまき		
所在地	〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻29-34-4		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日	令和4年5月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで静かな立地環境にあり、独自の畑も所有している。夏野菜を栽培し、利用者様と共に収穫を楽しんでいる。また、日々の活動や行事等を皆さんに楽しんで頂けるよう、職員達も工夫を凝らしている。共に支え合い、共に楽しみながら笑顔で施設での生活を送って頂けるよう日々の対応に当たっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、森林や農地に囲まれた集落の中心部に位置し、周辺には小学校、保育園、郵便局、店舗、住宅などもある、自然豊かで生活環境が整った場所に立地している。自治会に加入しており、近隣の保育所・小学校・中学校・地域と交流が活発に行われてきたが、近年コロナ禍で多くが見合わせとなっている。運営にあたっては、法人の企業理念やグループホームの理念を職員間で共有し、機関紙やお知らせにより利用者の生活状況を家族にお知らせしてご意見を伺うとともに、職員は利用者の表情や仕草を通じて意向を把握し、お手伝いや趣味、食事、外出などに対応している。また、法人による職員アンケートで職員の要望等を把握し、勤務体制の調整のほか資格の取得支援、手当ての支給など、知識や技術の修得による利用者へのより良いサービスの提供に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念としている「共に笑い、共に生きる」事の意味を理解し、共有して日々の実践に繋げている。対応に行き詰まった時は、共に笑うために今出来る事を考え、工夫する様にしている。	開所時に職員の声を集約し「共に笑い生きる」を理念に定め、職員会議等を通じて職員間で共有し、日々の介護サービスを提供している。利用者笑顔で話しかけながら、意向を把握している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍のため、地域の自治会や小、中学校との交流は出来ていない。町主催の生涯学習フェスティバルに作品を展示したり、チャレンジデーに参加の様子が町の広報に掲載されたりと、地域の一員としての活動は出来た。	自治会に加入し、広報は役場のボックス経由を含め3部届いている。町や地域の行事予定は入るが、コロナ禍で参加を控えている。町主催のチャレンジデーに参加し、事業所内で実施した活動が町の広報紙で紹介された。近隣の保育園とは日常的に触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会を通して、困った事があつたり悩みがある場合には気軽に相談できる場所として声をかけて頂くよう、継続してお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍のため、昨年度に引き続き書面開催とさせて頂いているため、資料のみの配布となっている。気軽に意見や感想等を頂けるようにフリーページの用紙を添付している。意見を頂いた場合にはサービスに活かせるよう努めている。	コロナ禍のため会議資料を事業所便りと会社の「通信」とともに委員に郵送し、返信用封筒を同封し意見を求めている。電話ではあるが、感染症対策への助言や励ましをいただいているほか、以前は委員の努力でホーム前が舗装となったり、町が有する用具等(餅つき)の貸し出し等の情報をいただいたこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	葛巻町役場を訪れた時に声を掛けさせて頂いたり、包括支援センター主催の地域ケア会議等に出席させて頂き、情報交換を行いながら協力関係を築くように取り組んでいる。	行政情報は、電話やメールのほか、役場の事業所毎のレターボックスから書類をいただき、コロナ禍のワクチン接種の日程調整など、行政に関連する事項の助言や助力を得ている。また、地域包括支援センターから待機者の紹介を受け、町設置の防災ラジオを通じてタイムリーな防災情報を入手している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の月例会議や運営推進会議の場を利用して身体拘束委員会を開催し、スピーチロックを含め身体拘束をしないケアが正しく行われているかの確認、報告を行っている。帰宅願望の強い利用者様があり、離脱等のリスクを考慮し、玄関は施錠させて頂いている。	職員による委員会を3か月ごとに開催し、会議の結果を運営推進会議に報告するとともに、月例のミーティングで説明し、趣旨の徹底を図っている。オンラインによる身体拘束適正化の研修も受講している。身体拘束の事例は無く、玄関の施錠も夜間のみで、居室での転倒予防用センサーを2名が使用している。スピーチロックと思われる対応があった場合には、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	スピーチロックを含め利用者様への対応が適切であるかを、事業所の月例会議で検討し、虐待防止に努めている。また、声掛けの際の言葉にも気を付けるよう心がけ、日々の対応に当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護に関する知識を得るまでには至っていない。事業所の月例会議にて、成年後見人制度について勉強会の時間を設けた。今後は、オンライン動画での研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面で確認しながら、丁寧に説明をし理解を得ている。不安な事、疑問点等気軽に言える雰囲気作りや言葉かけにも気を配っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常の様子を少しでもご家族様に伝えたいとの思いから、二ヶ月に一度個人通信を作成し送っている。利用者様との会話から、要望等を引き出せるよう工夫している。	コロナ禍で面会を制限していることもあり、家族には機関紙や居室担当作成の個人通信で利用者の活動状況をお知らせし、併せて意向等を伺っている。移動能力(歩行)を保持出来るようにとの要望があり、日々のケアに反映している。また、利用者の外出や食事、体操などの要望は対話や仕草により把握している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が集まる事業所の月例会議を二ヶ月に一度開催し、職員からの意見や業務改善についての提案を聞き反映させている。	2ヵ月毎の月例会議や、委員会(防災・備品・食事・排泄)で出された意見・提案を運営に活かしている。運動会やバーベキューを開催し、コロナ対策ではアルコール容器を目立つピンク色にした。また、法人が行った職員アンケートで職員の意向を把握し、勤務体制や資格取得等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りに努めており、個々の意見も言いやすい環境にある。就業規則の見直しを行う等職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、事業所の月例会議で社内研修を行っている。今後は、個々に時間のとれる時に合わせて行えるよう、オンライン動画での研修も予定している、また、資格取得のための補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会に加入しており、情報交換している。数は少ないが町主催の研修会、その他外部研修参加時の情報交換で得た事を活かし、サービスの向上に繋げる事ができた。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を理解、把握し本人の心に寄り添い安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話での状況報告時に、要望、意向、思い等を聞き信頼関係構築に努めている。		

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の必要としている支援を把握し、対応に努めている。特に本人の必要としている支援に対して、全体で考え話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に出来る事、一緒に楽しめる事を考え、工夫しながら生活を共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを理解し、本人を支えて行く関係作りをしている。二ヶ月に一度、和や家通信と利用者の個人通信を作成し家族へ郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、馴染みの方の訪問はなかったが、地元町内のドライブを楽しんだり、会話でも町内に馴染みのある話題や広報等を見ながら共通の話題にふれる様心がけている。馴染みのお店のお弁当も喜ばれた。	コロナ禍で馴染みの方との往来は殆どない。広報や新聞、葛巻テレビ視聴等から身近な話題を共にしている。ドライブで馴染みの自宅周辺や利用した店・施設などを訪れている。通院で馴染みの方と出会うこともある。懐かしいおやつや地域の特産品などで、昔を偲んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の様子を把握し、座席の位置にも気を配り、それぞれが楽しく会話出来る関係作りが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為、退所となった際も状態確認等連絡をとり、その後についても相談や助言等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通し、希望や意向の把握に努めている。それに加え、本人の状態把握や表情などからくみ取れる思いを把握出来るよう心がけている。困難な場合には生活歴を把握した上で検討している。	日々の会話や仕草を見て利用者の意向を把握し、食べ物、外出場所などに対応している。仕事・生活・趣味を活かし、清掃・食器拭き・畑仕事や、描画・ぬり絵・書道等に取り組んでいる。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人と家族から聞き取りを行い、入居後は本人や家族とコミュニケーションを図り、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で過ごしたい方、テレビ等を楽しみたい方、個々のペースで生活している中で観察を行い、観察状況を記録し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りや月例会議を活用し、利用者個々の状態や問題点を検討し介護計画を作成している。計画の評価を定期的に行い、家族の要望、医師や看護師の指示や助言等も計画に反映している。	3ヵ月ごとに計画の見直しを行っている。職員会議でのカンファレンスや居室担当からの聴き取りを行い、ケアマネがモニタリングを行っている。コロナ禍のため、介護計画は利用者全員の家族に郵送し、ケアマネが電話で説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常会話の中での行動や言動等、気になった事を申し送り時に報告し、申し送りノートを活用して情報共有している。それぞれの職員が気付いた事は記録し、月例会議で検討の上実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者の趣向や要望、家族関係等を把握した上で安全可能な限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の病状、生活面での変化により他医療機関、介護施設、行政に可能な範囲で情報提供又は相談し、利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の状態や意向を理解した上で支援している。また、一か月に一度の訪問診療の際は日常生活情報やバイタル測定値を報告、急変時は直接主治医と連絡が取れる体制になっている等、かかりつけ医と事業所の関係も築けている。	葛巻病院医師が毎月訪問診療で来所し、外科・眼科・神経内科へは職員同行で受診している。また、法人の訪問看護ステーションから看護師が定期に来所しており、医療・看護・介護の連携は密に図られている。外科、神経内科、眼科などの特別科は、職員が同行している。医療機関には、生活状況やバイタルチェック表などを提供している。歯科は訪問診療である。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に訪問看護ステーションがあり、連携している。状態に変化がある時は訪問看護ステーションの看護師に連絡、相談し適切な受診や看護を受けられる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	葛巻病院に関しては、地域連携担当職員と連絡をとり情報交換を行っている。他医療機関に関しては、受診日に状態報告のファックスを送り、情報提供を行いながら病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認しながら支援して行きたい。急変時の受診先や終末期を迎えた時の意向確認については家族から聞き取りを行った。聞き取りを行った段階では看取りを希望する家族が多かったことから、重度化した場合には法人としての重度化に関する指針をもとに十分説明し、意向の再確認を行いながら本人や家族の希望にそえるような支援に努めて行きたい。	入所時「重度化に関する指針」を説明し、同意を得ている。今までの利用者は、医療が必要な終末期状態で、病院への移送が殆どであった。利用者・家族の要望を受け、看取りを含む終末期対応の職員研修を計画的に進めている。	重度化や終末期への対応は、医療・看護との連携が不可欠となる。グループである他の事業所の事例も参考としながら関係機関と連携し、利用者、家族の願いである「生活の場での終末期(看取りを含む)対応」に取り組まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修として、消防署員による救命救急講習を職員全員参加のもと行った。また、急変時の対応マニュアルに沿い各自シュミレーションを行う等、慌てずに対応出来るよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当職員を中心に、年二回の火災を想定した避難訓練を行っている。近隣住民に協力を依頼したこともあり、協力体制の構築に努めている。また、施設の近くに川もある事から、自然災害想定での避難訓練も行い、非常食、水等の物資の確認を定期的に行っている。	火災想定での避難訓練の他、事業所の前を川が流れているため洪水を想定した訓練も実施している。グループ内の協力体制は整っており、会社の車両で他事業所へ避難した事がある。食糧・飲料水等3日分の備蓄があり、自家発電機を備えている。地域住民に、訓練への参加要請をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助、入浴介助時は特に心掛けてプライバシーを損ねない声掛けを行っている。個々の利用者に合った声掛け、その場やその時の雰囲気や声掛けや対応をしている。	生活歴を大切にしながら、利用者の「ありのままの姿」を尊重し、共感を大切にその場面に応じた声掛けに努めている。残された能力をお手伝いや趣味などに活かしている。排泄や入浴時は、羞恥心に配慮したケアを行っている。居室の開放、カーテンの使用などは、利用者の意向に沿っている。パンフレット、機関紙への写真掲載は、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向や希望を出せるような会話を持ち掛け、思いを聞けるような工夫をしている。自己決定が出来ない方にはこちらから提案をさせて頂きながら自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースでゆっくり生活して頂いている。日々のレク活動や作業の内容は提案させて頂いているが無理強いにならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事に参加する際に化粧をしたり、おしゃれをして頂くと皆さんが華やいた笑顔を見せて下さっている。必要な方には声掛けをする等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で食べたい物を聞き、献立にも活かしている。夏に畑で収穫したキュウリに味噌をつけておやつに提供した所、昔話に花が咲き喜んで頂けた。普段の食事の盛り付けや後かたづけも出来る方には手伝って頂いている。	献立は利用者の声を参考に職員が作成している。週2回地元のスーパーなどから食材を購入しているほか、畑で収穫した野菜や利用者家族からの差し入れの食材を用い、利用者も調理し、後片付けも手伝っている。四季の行事食や敬老会の弁当、誕生会のケーキ、郷土食のカッケほか、手作りギョーザ、流しソーメンなどのイベントも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分摂取量を記録している。利用者の好みによりコーヒーやお茶、ジュース等を提供している。水分をなかなか摂るのが難しい方にはゼリーを作り提供する等の工夫を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っている。 自力での口腔ケアが難しい方には義歯洗浄等の支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方にはトイレ誘導の声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツや尿とりパットの使用率が増ってきているが、排泄量を確認しながら個々に合った物を使用している。	半数の方は自立し、トイレで排泄している。排泄パターンを把握しての部分介助が2名、全介助も2名である。見守りが主で、全介助2名、部分介助2名である。下着は布パンツの他、リハビリパンツやパットを併用している。居室でポータブルトイレを利用する方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、体操やレク活動で身体を適度に動かす工夫をしている。水分摂取量の観察を行い、少ない方にはゼリー等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ、こちらで入浴予定を決めさせて頂いている。希望がある場合には希望に沿った支援をしている。	週2回入浴している。2日に1回、午前中の中の入浴としている。熱い湯を好む方もいる。入浴のない日は、足浴や清拭をし清潔に配慮している。入浴中は職員と昔話や食べ物の話が弾み、歌を口ずさみ楽しむ方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、状態により声を掛けさせて頂くこともある。また、本人が希望した時や疲労が見えた時、夜間等安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作成し利用者一人一人の内服薬の副作用、注意点等の理解に努め支援している。 状態変化を確認した際は訪問看護ステーションと情報を共有し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業内容、レクリエーション、調理等個々の利用者が出来る事や好きな事を把握し、楽しみながら気分転換を図れるよう支援している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もコロナ禍のため、外出行事や個々の外出支援を行う事は出来なかった。施設近隣の散歩をしながら気分転換をし、季節の移り変わりを楽しんだ。町内一周ドライブでは久しぶりに自宅を眺める事が出来たりと、話題豊富に会話が弾んだ。	コロナ禍で外出機会は少ないが、穏やかな日は施設周辺や近隣の保育園へ散歩している。畑の野菜の世話や、ベンチを置き日向ぼっこやお茶会を楽しんでいる。季節に応じお花見(桜・りんご・チューリップ)にドライブで出向いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来ない方でも欲しい物がある時には買い物が出来るよう、家族から了解を得ている。買い物日に欲しい物があるかを聞き取り、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望を受け支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している。季節の花を飾ったり、季節ごとに貼り絵や作品を利用者と職員が一緒に作成しホールの壁に飾っている。音楽を流したり、窓からの光をカーテンで調整したりと、居心地よく過ごせるよう工夫している。	南向きの大型の引き戸や天窓からの光で、広々としてロビーは明るく、開放感がある。家族からのカーネーションの鉢や季節の花が活かされている。また、利用者の手作りのちぎり絵、折り紙、鯉のぼりなどが飾られている。エアコン、空気清浄機、加湿器等で、温度や空調は適正に管理されている。夜間用の足元ライトを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。居室やホールの好きな所で過ごしている。話が合いそうな同士が隣り合って座れるようにする等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる物や、行事、家族の写真を飾り居心地のよい居室作りに努めている。自宅から馴染みの物を持って来て頂いたり、本人にとって気になる物は排除したりと、くつろげる様工夫している。	温度・湿度はエアコン、空気清浄機で管理されている。ベット、チェスト、カラーボックス、戸棚(ハンガー付き)が設置され、テレビ、家族写真、行事写真、位牌などが持ち込まれるなど、利用者の意向に沿った配置となっている。トイレ付きの部屋(1室)もある。	

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等、大きく見やすい様に表示し、利用者の自主的な行動の妨げにならないよう工夫している。		